

鉄鋼グループ売上100億円達成

「次の目標は200億円」(三上社長)

特殊鋼加工流通のノボル鋼鉄(東京都千代田区、三上晃史社長)の2023年6月期業績は、彩光サスアロイのグループ化などにより念願のグループ売上高100億円を達成した。

売上高は前期比3・6%増、当期純利益は15・0%増となる好業績だった。三上晃史社長は「決意を示すという意味で、次は200億円を目指したい」と語る。23年6月期はM&A効果に加えて販売単価の上昇があり、下期を中心に工具鋼や構造用鋼などの需要分野が堅調に推移したことなどが背景にあり業績を確保した。

単体売上高では1991年6月期に100億円を記録しているが、時代の荒波、市場の変化を乗り越えての達成は大きなトピックスだ。24年6月期は減収見込みとする。収益確保には厳しい環境が継続するが、自動車や産機関連の需要改善などは期待できるという。「自動車関連は、底は打った。また、いろいろ手を打つ余地が出てきた」(三上社長)。設備投資では、NC旋盤とターニングセンターを新たに導入し、精密な部材加工などの対応力を向上させる。帯鋸の老朽更新も行い、静岡支店、仙台支店、羽田配送センターで各1台更新導入する見込みだ。投資額は計6700万円程度となっている。

23年6月期は、物流や資材コストの上昇、出張費など経費の増加はあったが、好業績による社員への還元も行った。人材確保にも注力し、社員への会社や業務環境に対する満足度調査も実施している。